

# 「命を守り育てるために」

秋森 学

## 【はじめに】

東日本大震災から一年が経過した。想定外の被害に遭い、大きな悲しみにくれながらも日本は復興を目指し歩んでいる。そして今、日本中が防災・減災への意識を高め、その対策を進めている。学校現場も例外ではない。時と場所を選ばない自然災害に対し、柔軟な思考と判断力を持ち、瞬時に的確な行動をすることで自分や他人の命を守ることが出来る人材の育成とは・・・？学校の担う防災教育の在り方を常に問いつら、今後の教育活動を進めていかななくてはならない。

## 【沿岸部に立地する須崎高校】

須崎高等学校は、須崎湾に面し、目前に国道を挟んで新莊川が流れている。海抜四メートル、河口からはおよそ七五〇メートルに位置する。土地は昔の河川敷で、埋め立て地であり、地盤は弱い。地震発生時には、液化化現象も懸念される。校舎は南と北に分かれ、共にコンクリートの四階建てで、南校舎は地上から屋上までが十五メートル、北校舎は十四、九メートルと、須崎市が避難場所に想定する海抜二十メートルには到底及ばない。

## 【須崎との防災・減災パートナー協定】

平成二十二年度に須崎市と防災・減災パートナー協定を締結した。これは次世代へ命をつなげていく使命と地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的としている。この協定に定める活動とは、防災・減災学習や訓練等を通じて、確かな知識と的確な判断ができる人材の育成と防災力を高める地域づくりの推進を目指して実施するものとしている。互いの防災・減災活動に対し、協力し合い推進していきたいと考えている。

## 平成二十二年度の取り組み

各教科・行事・委員会活動等を中心にく

## 生徒保健委員会活動

### 【校内安全点検】

校内安全点検は、平成二十一年度から保健委員会活動の中で実施している。安全で充実した学校生活を送ることが出来るように生徒自身がその意識を高めることを目的としている。高知大学の岡村眞教授と合同で行った平成二十二年度の安全点検では、体育館付近の壁や渡り廊下（コンクリート）に、プレートのずれによると思われるひび割れが見つかった。



(体育館及びその周辺はその後、耐震工事が済んでいる)平成二十四年度も南海地震対策の視野も入れた点検を行い、修繕箇所が必要な場所については、保健委員会から改善の要望をしている。

#### 【避難経路・避難場所のフィールドワーク 六月三日】

従来の地震による津波発生時の避難場所は、校舎3F以上としていた。しかし、東日本大震災の発生により、新たな避難経路と避難場所の検討を行うこととした。

須崎高校の北に隣接する岡本地区の地区長、防災ボランティアリーダー、自主防災組織の会長を交えての防災会議を開き、生徒保健委員、生徒会執行部、運動部の部員、岡本地区住民とでフィールドワークを行った。須崎高校のグラウンドから出てすぐの岡本地区にある裏山には、昔の生活道が残っており、岡本地区もこの生活道を避難道として検討しているとのことであった。この道は、少し上がると、海拔二十メートル地点の墓地に着く。頂上まで行くと海拔八十メートルの須崎市斎場に出る。ヘリポートもあり、須崎市も避難所指定を検討している場所である。かなりの整備が必要な状況だったが、岡本地区の人々と教職員で整備し、この生活道を避難道、須崎市斎場を避難場所として、今後の避難訓練に活



かすことにした。

#### 【救急法講習会 四月二十一日】

救急法の実施形態も、従来は消防署等の外部講師に頼る部分が大きく、生徒・教員も受け身がちな講習会となっていた。災害発生時に一人ひとりが行動できるように、学校主導型の講習会にした。救急法の事前学習会を、生徒保健委員会、生活委員会、生徒会執行部等の生徒と、当日の実技指導にあたる教員を対象に行い、講習会に臨むようにした。それによって、生徒及び教員の主体的に学ぶという姿勢が見えてきた。

#### 【校内生徒保健委員研修会 十月二十一・二十四日】

「災害時に便利なグッズの製作」をテーマに、南海地震発生時に、限られた資材の中で生活必需品を手作りする研修会を日本赤十字社救急指導員の方を講師に迎えて実施した。

簡易トイレやおまる、新聞紙で作るスリッパ、ストレスを和らげるホットタオル、避難場所での小さい子供が遊ぶバンダナで作る人形等の作り方を教えていただき、生徒は人の知恵に驚い



たり、感心しながらも、真剣に学びとろうという姿勢で臨んでいた。

【防災・減災リーダー養成研修 十二月十七日】

南海地震に備え、危惧される大災害の危険性を学ぶことにより、防災・減災意識の向上を図ること、災害発生時には率先して避難行動がとれるようにするとともに、ボランティア活動を含めた防災行動力の強化を目指すことを目的とし、徳島県立防災センターへ研修に行った。参加生徒は保健委員、生徒会執行部、放送部のメンバーである。地震体験のみならず、風雨・煙・消火体験等や徳島県内で行われている南海地震対策の講話を聞くことができた。今後の本校の防災教育や活動に活かせる充実した研修を行うことができた。

【避難道の看板製作のためのフィールドワーク 三月十九日】

岡本地区には、新莊保育園、新莊小学校、須崎中学校、須崎高校と多くの学校等が集まっている。それぞれが、この岡本地区にある避難道を使用する。この避難道のひとつを須崎高校が避難道として使用することになったのをきっかけに、地区住民や近隣の保・小・中学校生への防災啓発、災害発生時のスムーズな誘導を目的として、避難道の入り口に誘導看板を製作することにした。地区にあるそれぞれ



の避難道を把握するため、地区住民の協力のもとフィールドワークを行った。看板の表示内容については、岡本地区の方と検討し、今後製作にとりかかるとの予定である。

行事

【防災2011日須高・南海地震フォーラム 七月十五日】  
午前中…防災学習

学年	テーマ	講師
1年	東日本大震災から学んだこと～緊急消防援助隊の活動から～	高幡消防組合須崎消防職員
2年	災害に備える、ともに生きる	高知大学防災すけっと隊 松尾 美佳 さん
3年	災害ボランティアセンターについて学ぶ	高知県ボランティア・NPOセンター及び須崎市社会福祉協議会職員

南海地震フォーラムに合わせて、午前中は、各学年毎に外部講師を迎えて防災学習を実施した。震災後の講話であるため、どの学年の生徒も真剣に聞き入る姿が印象的だった。特に三年生は、社会がまじかに見えはじめ、ボランティア等で即戦力となりうるため、体験学習の内容を取り入れた。三年間の防災学習は、系統的にしかも内容は、その時代に合わせて変化させ、最終的には現実に活かせるという点を重視しながら、継続して行っていきたいと考えている。

## 午後・南海地震フォーラム

本年度の南海地震フォーラムは、東日本大震災を教訓とし、新たな防災・減災について考える機会にするとともに、これまでの防災計画を見直すきっかけにしたいという観点で行った。国立高知工業高等専門学校准教授岡

田将治氏の講演や防災パートナー協定を結んでいる須崎市の防災対策の実践発表、本校生徒保健委員による防災活動の取り組み発表は、生徒や教職員のみならず、

臨席いただいた、保護者、地域、近隣の小・中学校の生徒、教員の方々に必要な情報を発信することができた。

パネルディスカッションでは、高知県南海地震対策課長、須崎市地震防災課長、高知県教育員会スポーツ健康教育課長をお招きし、現段階の変わりつつある南海地震対策について意見交換が交わされた。このような場を設定し、その進捗状況を示すことができたことは、フォーラムの効果として大きかった。フォーラム後のアンケートの結果からも、継続の声が強く、今後は、生徒を中心とし、高校生同士の意見交換、



来場していただいた方々との交流の場として開催していききたいと考えている。また、次世代を担う防災リーダー育成の機会として継続して実施をしていきたいと思う。

### 【避難訓練 十月十八日】

新しい避難経路・避難場所を使用しての地震・津波避難訓練を、十月十八日（火）に実施した。

緊急地震速報の練習キットを使い、授業中に地震が発生し、十五分後に津波が発生して、校舎四階まで浸水するという想定で実施した。生徒は、南舎、北舎それぞれの教室に分かれて、授業を受けているため、避難誘導は各教科担当教諭の判断と指示によるとした。

十五分以内に海拔二十メートルの裏山の墓地まで全員が避難完了することを

目的としていたが、靴の履き替え、避難道の狭さによる渋滞で避難できず、課題が残った。しかし、現時点では最短のルートであり、避難道の整備を須崎市にも要望し、また訓練を重ねて時間短縮を図りたいと考えている。

### 【避難訓練アンケートより】

訓練後に生徒・教職員を対象に行ったアンケートでは、避難道の狭さにより起こった渋滞、それによる落下の危険性から整備



を強く望む声が多かった。生徒のアンケートに書かれていた避難道整備への要望の理由には、地域のお年寄り、乳幼児、妊婦などへの配慮の必要性があるとの意見が数多く記述されていたことに驚いた。震災後、自分の命を守ることでなく、他人の命、特に災害時要援護者への配慮などを強く考えるようになっていいると思われた。



### 【放送部の活動】

平成二十二年度に続き二十三年度も地震・津波防災をテーマに映像作品を制作した。本校の抱える避難道の課題を追求する内容で、避難道を生徒や住民が実際に歩いて課題を検証する様子を取材し、収録している。また、地域の防災関係者や高知大学の岡村眞教授へもインタビューし、手軽にできる防災対策も取り上げている。この映像は、本年度の文化祭でも放映された。「防災を考えるきっかけになってくれたら」という生徒たちの思いが活動の幅を広げている。

各教科

### 【課題研究グループ】

東日本大震災による津波発生時には須崎市民も避難した城山公園(須崎市内)に防災や観光情報の案内コーナー”

を設置した。製作・設置には須崎工業高校のユニバーサルデザイン部が協力してくれた。津波避難の心構えや災害用伝言ダイヤルの使い方、日頃の備え(内容は本校生徒保健委員会が作成)などのほか、須崎市内の名所なども記載している。市民はもちろんのこと、観光客にも案内板を見ることが防災意識を高めてほしいと願う。

### 【防災LH 九月二十二日】

本校では、高知大学防災すけっと隊の学生による防災授業をLHで実施している。高・大連携という視点から、大学生との授業の中で、教えたり教えられたりと、ともに学び育つ姿があり、生き生きと学習に取り組む様子が見られる。防災の授業については、テーマに合わせて各学年毎か全校一斉で実施している。二十三年度は、「災害が発生した時、どのように逃げるか」を共通テーマに各学年毎に実施した。東日本大震災を意識し、南海地震への自分なりの対策を一人一人が考えるよい機会となった。

### 【校内教職員研修 八月二十五日】

南海地震への知識を深め、地震発生時に必要なトリアージや応急手当の実技を学ぶために校内教職員研修を行った。生



徒が在校時に地震が発生したら、その現場にいる教職員が対応しなければならぬということを意識しながら研修に臨んだ。今後は、さらにリアルな被災現場を設定し、その中でより緊迫感を持って応急手手やトリアージが迅速かつ適切に行われるような研修にしたい。



#### 【今後の課題】

防災教育は、学校教育全体のあらゆる場面、機会において、系統的に実施されることが望ましい。本校の防災への取り組みも「できることから」をコンセプトに置いて出発した経緯がある。

取り組みも広がってきた今、生徒を含めたプロジェクトチームを立ち上げ、より実践的、より主体的な教育活動を展開していく計画である。今後の重点課題として以下の三点を掲げるが、さらに須崎高校の防災教育を前進させていきたい。

- ・ 地域と連携した防災教育の推進
- ・ 南海地震フォーラムの開催継続
- ・ 地域防災の核となる防災リーダーの育成

(高知県立須崎高等学校長)